

「応援します!! あなたの農業」



あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 48号 平成27年12月

発行元 福島市中町8番2号
公益財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

平成27年度 農地中間管理事業推進会議を開催しました

農地中間管理事業の推進を図るため、県との共催により、9月8日(火)福島県ハイテクプラザ(郡山市)において「平成27年度農地中間管理事業推進会議」を開催しました。当日は、市町村、市町村農業委員会、農業協同組合ほか関係団体、県機関等約140名の出席がありました。会議は二部構成で、第一部は事例紹介、第二部は推進に関する情報提供等を行いました。

第一部では、二市町(南会津町、会津若松市)から事例報告をいただきました。

南会津町からは同町農林課藤沢一彰主査より、町は行政区に対し人・農地プランに関する情報提供を行い、地域の手挙げ方式で人・農地プランを作成するよう進めているとの説明があったほか、町内のK地区において、認定新規就農者が畑作(そば、大豆)で集積を行った事例を紹介し、とりまとめ役のリーダーの存在とリーダーを支える役員のネットワークの良さ等で話し合いを進められたこと、さらに今後は地域の徹底した話し合いによる人・農地プランの作成を一生懸命やっていきたいとの報告がありました。

次に、会津若松市からは同市農政課荏原彰夫主任技査より、事業取組を希望する集落への集落説明会の開催や、農用地利用配分計画(案)の作成

手順についてのほか、農地中間管理事業に取り組む上で苦労したことなどについて、報告がありました。

第二部では、公社及び県から事業実施状況、貸付希望農地のリスト化、事務事業運用の改善、平成28年度国概算要求等に関する説明を行いました。出席者からの質問で特に多かったのは、機構集積協力金の内容見直しに関する事で、交付基準の急な変更を受け、現場での対応や次年度以降の推進に対する不安の声が寄せられました。



平成27年度農地中間管理事業推進会議
(福島県ハイテクプラザ)

一 集積推進課

平成27年度第3回 農地中間管理事業に係る 借受希望者の募集について

農地中間管理事業の今年度第3回の借受希望者の募集を行っていますのでお知らせします。

(1) 募集期間

平成27年11月25日(水)～12月25日(金)

(2) 申込方法

借受希望者は、応募する市町村の募集区域を確認の上、必要事項をエントリーシート(応募用紙)に記入・捺印し、募集区域を所管する市町村農政担当課へ提出するか、直接当公社へ郵送、メール等により提出していただくようお願いいたします。

なお、今回からエントリーシートの様式を一部変更しておりますので、ご注意ください。

既に応募されている方については、今回の応募の必要はありませんが、新たな区域等で借受希望がある場合には、その区域を記載したエントリーシートの提出をお願いします。

エントリーシートは、当公社ホームページ(<http://www.fnk.or.jp>)からダウンロードできます。

(3) 結果の公表

第3回募集結果については、平成28年1月中旬頃に当公社ホームページに掲載する予定です。

詳しくは、当公社(電話024-521-9845)または市町村の農政担当課にお問い合わせください。

農業者との 意見交換会を実施しています

公社では、農地中間管理事業の推進及び取組の改善を行うため、農業者の皆様との意見交換会(集落説明会など)に積極的に参加しております。

平成27年度は、4月から10月末までに26回対応しております。



集落説明会(下郷町倉檜地区)

参加された農業者の方々からは、ご自身の経営や地域の課題、農地貸借取組み上の課題等について様々な御意見をいただきました。公社ではいただいた御意見を可能な限り反映し、農業者の皆様が利用しやすい農地中間管理事業への改善に努めていくこととしており、平成28年度からは以下の点について、改善・見直しいたします。


<改善・見直し(予定含む)>

- ① 賃借料の精算について、金納に加え、物納も取り扱います(平成28年作から) [公社]
- ② 借受希望者の募集時期を限定せず、長期間(通年)募集を予定しております [公社]
- ③ 農用地利用配分計画の県公告時期を固定せず、希望に応じ柔軟に対応します [県]

今後も、農業者の皆様からの御意見をもとに、より使いやすい農地中間管理事業に向け必要な改善に努めますので、一層の事業のご理解とご活用をお願いいたします。

今号のコラム

母の夢

私の息子は1年程前から、ハンドボールを習っています。サッカーやバスケットボールに比べて、ハンドボールの競技人口は約8万人と少ないのですが、きっかけは同じクラスの子がやっていて、練習を見学に行ったことでした。私も息子もハンドボールを間近で見たのは初めてでした。 

農業青年クラブ員の若い力で
東日本大震災及び
原子力災害からの克服に向けて
「サイコー（再興・最高）の福島の農」を
消費者にアピール！

「第25回ふくしま農見本市」が
開催されました。

去る8月23日（日）、福島県農業青年クラブ連絡協議会（伊藤広明会長）は、「ふくしま農見本市」をビックパレットの外会場で開催しました。

今年も『24時間テレビ愛は地球を救う』と同時開催となり、当日は、雨天で肌寒い日にもかかわらず多くの家族連れが会場を訪れる中、クラブ員は農産物や農産加工品の販売を通して「サイコー（再興・最高）の福島の農」をPRし、消費者の方々と交流を深めました。



農業青年クラブ員集合写真

私たちは1人の男の子のジャンプシュートに目が釘付けになり夢中で見ていました。「あんなシュートが打てるようになりたい」と息子に思わせてくれました。あの男の子がいなかったら、ハンドボールをやっていなかったかもしれません。「継続は力なり」の精神で、少しずつ上達して欲しいと思います。いつか息子のカッコいいジャンプシュートが見たいです。 A.A

25回目となった今回は、各地域から、前回より2つ多い9つのクラブから72名が参加し、朝早くから設置したテントの中で、クラブ員が丹精込めて栽培した様々な野菜や花、桃・ブドウなどの果物、米、餅や果物で試作したオリジナルソースを用いたかき氷や・アスパラのベーコン巻きなどの加工品を展示販売しました。

棚揃え等展示ディスプレイ、試食・販売PR方法等は、年々趣向を凝らし消費者に満足のいく交流が出来たものと思われました。

来場者はクラブ員と言葉を交わし次々に新鮮な農産物などを買い求めていましたが、つきたて餅の販売テントの前には、つき上がりを待つ長い行列ができ、杵つきの体験イベントでは、幼い子供達が杵を持ち、それを写真に収めようとするお母さん方で賑わいました。



餅つきの様子

この農見本市をとおして、来場した消費者の皆さんに、クラブ員自身が生産した自慢の逸品を思う存分PRすることが出来ました。一部の風評を物ともせず元気楽しく農業をしている若い農業者の姿を見て欲しい、という今回の目標が達成できたものと思われまます。

これらの様子はテレビでも放映され県内に広くクラブ員の取り組みを紹介することができ、食と農の絆を広げることができた有意義な一日となりました。



「脱サラで自立農業経営に奮闘中」

堂島チェリートマト部会
小島 潤

みなさん、こんにちは。私は平成26年から就農し、喜多方市でチェリートマト栽培をしております小島潤と申します。全く農業経験はなかったのですが、平成25年に青年就農給付金（準備型）事業を活用し、研修を1年2ヶ月間受けた後の就農でしたので、いろいろな方達と知り合い、分からないことがあればすぐに聞ける環境を作ることができたため、初年度からでも大きな不安もなくやっていくことができました。

農業をしていく中で前職（サラリーマン）と農業で一番違いを感じたのは、当然の事ですが「自分で稼がなければならない」ということでした。ただ作るだけでは満足な収入は入ってきませんでしたし、どうやって収量を上げ品質を高め収入を残していくか、頭も体もフル回転させなければなりませんでした。

良いものを作るためには、圃場の状態を良く観察するようにと研修先の方から教わりました。経験と知識をその観察力と照らし合わせ最善の行動を取っていく、それが良いものを作るには欠かせない事なのだと感じました。私は今のところ問題

点が多いですが、逆に前向きに捉えその都度情報を集め改善策を実行し、早く経験と知識を得られるように努めています。

農業を始める際に周りの方から教わることは主に栽培の仕方などで、収支に関することはほぼ無かったように思います。いくら収量や売上が上がっても支出が多ければ手元には残りません。いかに経費を抑えるように無駄を無くしていくかといったことも必要でした。

草を伸ばしすぎれば病害虫にかかるリスクも増えるし、除草剤や草刈り機の燃料も多く使わなければならない、ということも私の実体験からの反省点です。

この2年間で私が実感したことは、「品質の良い作物を作っていく」ことが農業で自立していく上で最も重要な事なのだと思います。圃場を良く観察すること、経費も無駄な出費を抑えること、問題点をしっかりと把握し改善策を実行していくことで、作物の品質向上につなげられるようにしていきたいです。



編集後記

このたび、福島県農業振興公社では、農地中間管理事業の周知を図るため、写真のような卓上のぼりなどのPR資材を作製し、市町村担当窓口等に掲示されます。今後も農地中間管理事業のご活用をお願いします。

K. Y

お問い合わせ

あて先 〒960-8681
福島市中町8番2号 福島県自治会館8階
公益財団法人福島県農業振興公社 総務課
TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277
URL <http://www.fnk.or.jp>

